

金沢大学がん進展制御研究所・北海道大学遺伝子病制御研究所 ジョイントシンポジウム2017を開催

2017年12月19日

12月18日、金沢大学自然科学系図書館AVホールにて「金沢大学がん進展制御研究所・北海道大学遺伝子病制御研究所ジョイントシンポジウム2017」を開催しました。

北海道大学遺伝子病制御研究所からは、近藤亨教授が「分泌型腫瘍抑制因子であるEcr4の抗腫瘍効果の作用機序」について、北村秀光准教授は「神経ペプチドの一つであるニューロキニンA (NKA) およびNKA受容体を介したがんの悪性化と転移能獲得メカニズム」、さらに丸山剛助教は「細胞競合」現象により正常上皮細胞ががん化初期段階の変異細胞を排除する作用に着目して、それを効果的に促進するタンパク質キナーゼ阻害剤を発見し、その作用機序について最新の成果を発表しました。

本研究所からは、松本邦夫教授が「環状ペプチド技術や原子間力顕微鏡などの最新技術を用いたHGF-MET系制御法の開発研究」、土屋晃介助教は「細菌感染により誘導されCaspase-1によるガスダーミンD非依存的なアポトーシスの誘導とそのシグナル伝達経路」について、西村建徳特任助教は「がん細胞の幹細胞様形質の獲得における葉酸代謝系酵素MTHFD2の役割と分子標的としての有用性」について発表しました。

なお、来年のジョイントシンポジウムは北海道大学で開催される予定です。





写真提供：金沢市

平成29年
12月18日 [月]

14:00~17:25

場所：金沢大学自然科学系図書館
G1階 AVホール



14:10~15:35

セッション1

「分泌型腫瘍抑制因子Ecrp4の機能解析」

近藤 亨 教授 (北海道大学遺伝子病制御研究所 幹細胞生物学分野)

「葉酸代謝経路酵素、MTHFD2ノックダウンによる
幹細胞様形質の減弱」

西村 建徳 助教 (金沢大学がん進展制御研究所 分子病態研究分野)

「神経ペプチドシグナルによるがんの悪性化・
転移能獲得メカニズムに関する研究」

北村 秀光 准教授 (北海道大学遺伝子病制御研究所 免疫機能学分野)

コーヒーブレイク

15:50~17:15

セッション2

「異分野・異業種連携で進めるHGF-MET系制御と応用」

松本 邦夫 教授 (金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍動態制御研究分野)

「化合物スクリーニングから解き明かす細胞競合メカニズム」

丸山 剛 助教 (北海道大学遺伝子病制御研究所 分子腫瘍分野)

「Caspase-1依存的アポトーシスの分子機序」

土屋 晃介 助教 (金沢大学がん進展制御研究所 免疫炎症制御研究分野)

金沢大学がん進展制御研究所
北海道大学遺伝子病制御研究所
シンポジウム

2017



写真提供：金沢市

連絡先

金沢大学がん進展制御研究所
共同利用・共同研究拠点推進室

TEL:076-264-6702 FAX:076-234-4527

E-mail: kyoten@adm.kanazawa-u.ac.jp URL: http://ganken.cri.kanazawa-u.ac.jp/